

基礎数学 II

6

A を $m \times n$ 複素行列とする。 A は \mathbb{C}^n から \mathbb{C}^m への線形写像を与える。 A^* で A のエルミート共役行列を表す。つまり、 $A^* = \overline{A}^T$ 。ここに、 \overline{A} は A の複素共役行列、 \overline{A}^T は \overline{A} の転置行列である。明らかに、 A^* は \mathbb{C}^m から \mathbb{C}^n への線形写像となる。 $\mathbb{C}^n, \mathbb{C}^m$ にはそれぞれ標準的な内積 $\langle \cdot, \cdot \rangle_n, \langle \cdot, \cdot \rangle_m$ が定義されているとする。たとえば、 $\langle u, v \rangle_n = \sum_{k=1}^n \overline{u}_k v_k$ 。ただし、 $u, v \in \mathbb{C}^n$ の標準基底に関する成分をそれぞれ u_k, v_k で表した。以下の事実を証明せよ。

$$(1) \langle A^* \mathbf{y}, \mathbf{x} \rangle_n = \langle \mathbf{y}, A \mathbf{x} \rangle_m, \quad \mathbf{y} \in \mathbb{C}^m, \mathbf{x} \in \mathbb{C}^n$$

$$(2) \text{Ker } A^* = (\text{Im } A)^\perp$$

$$(3) \text{Im } A \oplus \text{Ker } A^* = \mathbb{C}^m$$

$$(4) \text{Im } A^* \oplus \text{Ker } A = \mathbb{C}^n$$

$$(5) (\text{Ker } A)^\perp = \text{Im } A^*$$

$$(6) \text{Im } A = \text{Im } A A^*$$

ただし、 $\text{Im } A, \text{Ker } A$ 等はそれぞれ、

$$\text{Im } A = \{A\mathbf{x} \mid \mathbf{x} \in \mathbb{C}^n\}, \quad \text{Ker } A = \{\mathbf{x} \in \mathbb{C}^n \mid A\mathbf{x} = 0\}$$

で定義される。また、部分ベクトル空間 V に対して V^\perp は V の直交補空間を表し、 \oplus は直和記号である。